

病院長からのメッセージ

「亜急性期入院医療」

病院長 泉 良平



医療が適切に国民に提供されるために、医療法などの法律があります。医療法では、入院用病床を、一般病床と療養病床とよばれる2つのタイプに分類しています。一般病床は、急性期疾患、即ち急病を治療するための病床です。これに対して、療養病床では、急性期をすぎて比較的安定し、長期間の療養による治療を行います。富山市民病院は精神科病棟を除いて、全ての病床を一般病床として届出をしており、急性期の患者様を治療する病院ということになります。

病気に変わりはないじゃないかと思われるでしょうが、急性期と療養期とでは、診療内容が大変異なります。急性期では、病気の原因を知ることから始まります。まず、様々な検査を行って、病気の原因を知らねばなりません。そして、治療を開始します。病気によっては、治療内容が複雑であったり、様々な医療機器を用いたり、また多くの医療スタッフの力を結集する必要があります。また、病状が急に悪くなる患者様や、手術を必要とすることもあります。このような、特に重篤な患者様を治療するための病室が「ICU：特定集中治療室」です。いわば「超急性期」の患者様を治療する病床と言うことになります。

さて、今年の4月に「診療報酬の改定」が行われました。診療報酬は皆様が医療をうけられ、支払をされる際の料金表と考えていただいて良いと思います。しかし、単なる料金表ではなくて、治療内容も細かく決められます。そして、今回は、これまで以上に治療内容に踏み込んだ改定が行われました。その一つが、「HCU：ハイケアユニット」と、「亜急性期病床」です。ハイケアユニットは、「超急性期」の患者様をICUにて治療した後、一般の病床では管理しにくい状態の患者様を治

療する病床として認められることになりました。市民病院では、来年の4月にICUの改築とHCUの増築を行い、「超急性期」に続いて「急性期」の患者様の治療に万全を期することと致します。

また、比較的病状が落ち着き、退院までの時間を過ごされている方もおられます。先に述べました医療法では、一般病床は急性期病床となっていますが、様々な方がその中に含まれることとなります。富山市民病院は、今年の6月から、今回の改定で認められた「亜急性期病床」を設定しました。この病床へは、急性期の治療が終わって、退院の準備期間を過ごされる方が入床していただくこととなります。退院に向けて、様々な準備をしていただきます。例えば、退院後に通院される際の施設を決定したり、「かかりつけ医」を探したり、と様々な対応を看護師と在宅復帰支援者（自宅で療養できるように支援する専門の者）が、医師と共同して行います。この病床に入っている間は、リハビリなどにかかる費用以外は全て決められており、検査などが行われても入院費用に上乗せされることはありません。安心して、退院までの時間を有効に過ごしていただけたと思います。

このように、病院の中に様々な患者様を適切に治療するためのシステムを作っています。病状に応じて、患者様を「超急性期」「急性期」「亜急性期」「慢性期」とに分けて、病院は治療・ケアを行っています。来年の4月にはこれら全ての患者様を治療する体制が整うこととなります。心のこもった医療を、効率よく提供できるように、これからも努力して参ります。

目次:

病院長からのメッセージ ○「亜急性期入院医療」 病院長 泉 良平	1
■診療科紹介 ○精神科	2
■連載企画 ○旬をたのしむ①「じゃがいも」	3
■連載企画 ○病棟だより④「東病棟7階」	4
■連載企画 ○病院を支える専門職① 「臨床心理士のご紹介」 臨床心理士 山野俊一	4
■特別寄稿 「臨床研修医レターⅠ：自己紹介」	5
■特別寄稿 ○「医療相談室の紹介」 医療ソーシャルワーカー 岩田大史	6
■連載企画 ○検査値の見える方③ 「前立腺腫瘍マーカー(PSA)による前立腺癌の検診」	6
■連載企画 ○医療相談Q&A① 「介護相談Q&A」	7
■連載企画 ○ボランティア・エッセイ④ 「母にプレゼント」 病院ボランティア 石森貞夫	7
■今月のふれあいギャラリー	8
■今月のイベントと院内の動き	8
■編集コラム	8



診療科紹介 精神科



吉本博昭 (よしもとひろあき)
精神科部長

昭和48年鳥取大学医学部卒
●専門領域：総合病院精神医学、アルコール医療、内観療法
●資格・学会：精神保健指定医、日本総合病院精神医学会指導医・専門医・評議委員、日本内観学会評議委員、内観医学会評議委員、医道審議会委員（厚生労働省）
●モットー：患者様やご家族とともに心の病気に立ち向かう過程を大事にし、少しでも治癒や回復に寄り添える医師であるように心がけています。



荒井秀樹 (あらい ひでき)
精神デイケア科部長
精神科医長

平成2年金沢大学医学部卒
●専門領域：総合病院精神医学、臨床精神医学、睡眠障害、家族療法・支援
●資格・学会：精神保健指定医、日本総合病院精神医学会専門医
●モットー：患者様やご家族が心安らぐ止まり木のような精神科医療を心がけています。

心の病気には不眠症から統合失調症まで多岐にわたりますが、どの疾患にも対応できるのが当科の特色です。それは、総合病院に中であって外来医療と入院治療を行うことができ、リハビリテーションとしてのデイケア施設を有し、活動療法棟で作業療法も行っています。ハード面を支えるスタッフも充実しており、精神科医師の他に、臨床心理士、作業療法士や精神保健福祉士などのコ・メディカルもいます。設備もP I C U (心のI C U) の整備や日本でもまだ少ないサイマトロンもあります。さらに、アルコール外来や心の漢方外来などの専門外来や、市民に無料で心の健康相談も行っています。特に、総合病院精神科の機能を発揮できやすい、精神科救急や身体合併症を伴った患者さまの治療に力を入れています。カウンセリングを希望する方も多く、その要望にも応えています。また、内観療法を治療に取り入れている総合病院としては数少ない施設でもあります。このような活動を行っており、日本医療機能評価機構より複合型B（一般病院と精神病院の機能を持つ場合）の認定を受けています。また、荒井秀樹らによる訳「境界性人格障害=BPD」（星和書店）を出版するなど、学術や医療活動に励んでいます。

★アルコール専門外来で扱う病名や症状

アルコール依存症、薬物依存症（シンナー、覚醒剤、睡眠剤、その他）、アダルト・チルドレン（AC）、ドメステック・バイオレンス（DV）

精神科で扱う病気の一つにアルコール依存症があります。この病気は、アルコール飲料を長く飲酒し、習慣性が生じ、コン

トロールのきかない飲み方となり、ついには心や体の病気を引き、飲酒事故・失職・離婚などの社会問題を引き起こします。断酒しないと慢性進行性の死にいたる恐ろしい病です。飲んだらストップできないのは意志が弱いと思われていますがそれは間違いで、意志薄弱者とアルコール依存症（以下、ア症）者は同一ではなく、ア症は病気という理解がまず大切です。詳しい情報を得たい方は、吉本医師の作成している「Good-bye アルコール依存症」（<http://www.nsknet.or.jp/~hy-comp/>）を参考にされるのもよいでしょう。

★心の漢方専門外来で扱う病名や症状

西洋薬が体質に合わなかったり依存が心配な場合、心身両面から治療を希望する場合、専門的漢方治療を希望する場合などが対象です。心の漢方専門外来は富山医科薬科大学和漢診療学教室のサポートを受けています。

★心の健康相談

当科では、市民の皆様のために無料で心の健康相談を行っています。毎週月、水、金曜日（休日・祝祭日・年末年始を除く）の午後3時より1時間です。完全予約制で、電話での相談はお受け致しません。予約は、電話で富山市民病院心の健康相談窓口（代表電話076-422-1112から内線「心の健康相談窓口」か「精神科外来受付」）へお申し込み下さい。予約受付時間は、午後1時から4時までです。

詳しくは当院ホームページをご覧ください。<http://www.tch.toyama.toyama.jp/>



長谷川雄介 (はせがわ ゆうすけ)
精神科医師

平成8年卒
●専門領域：てんかん、睡眠障害
●資格・学会：精神保健指定医
●モットー：患者様への一言：患者様に共感する医療を目指しております。



森腰夏子 (もりこし なつこ)
精神科医師

平成13年富山医科薬科大学卒
●専門領域：一般精神医学
●モットー：あせらず、あわてず、あきらめず



三浦真由美 (みうら まゆみ)
精神科医師

平成15年卒
●専門領域 精神科
●モットー・患者様への一言：まだまだ経験が浅く勉強中ですが、患者さまの近くにおいて、共に成長していく関係を大事にして頑張っていきます！！



■連載企画 旬をたのしむ① (栄養科)

「じゃがいも」

原産地はアンデスで世界でもっとも多く栽培されている野菜です。日本には、16世紀にオランダ人によってジャワのジャガタラ（現在のジャカルタ）から伝わりました。そのため当初は『ジャガタライモ』と呼ばれ、それが略されて『じゃがいも』となったといわれています。『馬鈴薯』の別名も持ちますが、これは馬につける鈴に形が似ていることから呼ばれるようになったといわれています。

★管理栄養士からのひとくちアドバイス

主成分はでんぷんですが、ビタミンB1・C・食物繊維なども多く含んでいます。『大地のりんご』といわれるほどカリウムの含有量が高いのも魅力です。カリウムは体内のナトリウムを排泄し血圧を下げる働きをしますので、高血圧予防や腎臓の機能低下で尿が出にくくなっている場合に有効です。但し腎炎などでカリウム摂取を制限されている人はたくさん摂るのは避けましょう。また、エネルギー制限されている人もたくさん摂るのは避けましょう。

★いもの品種に適した料理法

男爵いもはでんぷんが多く粉質なので、粉吹き芋やコロケ・マッシュポテトに適しています。メイクインは煮くずれしにくいので、煮込み料理や炒め物に適しています。調理の際は、切つてすぐに水にさらします。そのまま放置するとジャガイモに含まれるチロシンという成分が酸化して黒くなってしまいます。また、芽や青い部分には、ソラニンという有害物質が含まれていることが多く、たくさん食べると下痢やめまい、胃腸障害を起こすので、芽や青い皮はしっかり取り除きましょう。



患者様の栄養を守る栄養士の皆さん

生じゃがいも	410mg
蒸じゃがいも	330mg
茹じゃがいも	340mg

粉吹き芋	76kcal
ジャガバター (バター10g)	152kcal
ポテトサラダ	287kcal
肉じゃが	217kcal
フライドポテト	105kcal

- 当病院の献立紹介
- ・じゃがいもの吉野煮
 - ・じゃがいもの味噌汁
 - ・ポテトサラダ
 - ・ジャーマンオムレツ
 - ・じゃがいものそぼろ煮
 - ・肉じゃが

エネルギー	76kcal
たん白質	1.6g
脂質	0.1g
食物繊維	2.8mg
カリウム	410mg
カルシウム	3mg
リン	40mg
鉄	0.4mg
亜鉛	0.2mg
銅	0.1mg
ビタミンB1	0.09mg
ビタミンB2	0.03mg
ビタミンC	35mg
ビタミンE	φmg



配膳準備のようす

■連載企画 病棟だより④「東病棟7階」

「おはようございます。本日担当の〇〇です、よろしくをお願いします。」っと、私達看護師が患者様と顔を合わせる一日のスタートは、朝、患者様サイドに置く自分達の顔写真を持ち、それぞれの担当患者様に笑顔で挨拶し、本日の予定の打ち合わせを行うことから始まります。

当病棟には消化器に病気を持つ患者様が多く入院されています。消化器とは人間の内臓の大部分をしめています。そのため一口に消化器疾患と言え、症状や治療方法は多様であります。まずは絶食を強いられる苦痛な治療から始まります。しかし、ご安心ください。信頼でき腕に自慢を持つ医師と、心優しい師長はじめとする看護師一同が、チームワークよろしく、患者様が回復して頂けるよう頑張っています。そして、このように当病棟の49床は常に満床近く、稼働率もとても良い状態なのであります。

さて、日中勤務の終わりに朝配った私達の顔写真を回収するのですが、見当たらない時があります。ファンが持ち去ったのか、その実は、ごみ箱に落ち

ていて、ガックリすることもあります。このような感じで日中の患者様との関わりは終えますが、当病棟は多忙の中にも笑顔を絶やさず、チーム一丸となった医療提供がより充実して行えるよう励んでいます。



東病棟7階のスタッフ

■連載企画 病院を支える専門職①

「臨床心理士のご紹介」 臨床心理士 山野俊一



臨床心理士という呼び名は耳慣れない方が多いのではないのでしょうか。以前からカウンセラー、心理の先生、心理技術者などと呼ばれて病院の中で活動していました。数年前に、火曜サスペンス劇場で坂口良子が主演した「臨床心理士1」というタイトルを目にした時には、驚くとともに、時代の流れを感じました。その後も、テレビのコメンテーターなどに、

時々臨床心理士の名前を見るようになりました。1988年から資格認定が開始されて、現在までに全国で1万1千人以上の臨床心理士が誕生しています。小・中学校で最近よく耳にするようになったスクールカウンセラーと呼ばれる方たちの多くは臨床心理士です。

臨床心理士の仕事は「こころ」の健康のお手伝いのために、心理面接（カウンセリング）を行ったり、こころの状態を理解し問題を解決するために心理的な検査を行ったり、その方を取り囲む環境への心理

的な援助を行うことなどです。医療機関では主に精神科や心療内科などの「こころ」を専門とする診療科のほか、最近では、内科や小児科、産婦人科、NICU、高齢診療科などでも活躍しています。

病院には「こころ」の手当てをする専門職が幾人かいますが、臨床心理士は心理学を基盤とした技法や知識を用いています。学校や職場、家庭での人間関係などの悩み、自分の性格や生き方など様々な悩みや困難、不安を抱えた方々とお会いし、その方のお話を傾聴して、共感的な関係のなかで、解決の道を見出すお手伝い、患者様の「こころ」の問題への支援を行なっています。当院では、「精神科・こころの健康相談」に心理室が設けられていて、精神科医と連携をとりながら、臨床心理の仕事を行っています。



お詫び 先月号の連載企画「病棟だより」西病棟7階の記事に誤りがございました(東病棟7階の紹介文でした)。深くお詫びいたします。改めて本文を再掲させていただきます。



■再掲 病棟だより③「西病棟7階」

暖かい春が来て、桜や色とりどりの花が咲き、そわそわ・どきどきする新年度になりました。私たちの病棟にも、新しいドクターやナースが配属になりました。そしてその中にはピカピカの一年生ナースもおります。その初々しい姿を見て、自分も忘れかけていた初心を思い出しています。

私たちの西病棟7階は、内科病棟です。主に呼吸器や血液の病気の方が、入院されています。健康な時には、ごく自然に行っている呼吸が十分出来ずに、「息が苦しい」という想像もつかないつらさと日々戦っている方や、血液の中の細かい成分のデータの推移に一喜一憂されている方など、様々な方が入院生活を送られています。患者様より、「真夜中の巡回看護それぞれに 患者の寝息 そっと聞きゆく」という短歌を頂きました。たくさんの苦痛や不安を抱え、寝付かれない時間に詠まれたこの短歌に感動し、その方々の苦痛や不安を精一杯受け止め、昼夜間わず看護させて頂きたいと思っております。

■特別寄稿

「臨床研修医レターⅡ:こんな医者になりたい」 井石龍比古, 岡澤成祐, 馬瀬新太郎

前回自己紹介させていただいた研修医3人です。前はスペースの都合で書けなかったのですが、今回は私たちの求める医師像について書いてみました。

こんにちは、研修医の井石龍比古です。今回で2回目になりますが、病院でもし見かけたら声をかけてくださいね。今回のテーマは『こんな医者になりたい』なのですが、うーんと悩んでしまいそうなので自分の名前にちなんで「あいうえお作文」形式で。いろいろあっても、い…いつも元気に、し…しっかりと、た…楽しいことや、つ…つらいことも、ひ…ひっくるめて、こ…困っている患者さんを助けてあげられるようなお医者さん。どうでしょうか?少しでも近づけるようにがんばっていきたくと思いますので、よろしくをお願いします。

同じく研修医の岡澤です。私は目標として「医師」ではなく「お医者さん」と呼ばれる医者になりたいというのがあります。どちらも同じではないかと思われる方もいらっしゃると思いますが、自分の中では微妙に違っています。「医師」は資格がとればみんな医師にはなれますが、患者さんから親しみを込めて「お医者さん」と呼ばれるには、それ相応の信頼関係がないと無理ではないかと思っています。これはあくまで私の中での振り分け方ですが、そう呼ばれるように頑張っていきたいと思っておりますので皆さんよろしくをお願いします。

皆さん1カ月いかがお過ごしでしたか?馬瀬です。

早いものでもう六月も半ばですね。良い意味でも悪い意味でも、馴れがでてきて、ここらへんでガツンと気合を入れなきゃいけない時期ですね。さて今回は、僕らがこんな医者になりたいっ!!ということアピールしなさいとの事。また難しいテーマです。こんな医者にはなりたくないってのは簡単ですけど……。ただ、やはり、医者を目指してきたのは、人の役に立ちたいと思ってきたからですから、常にそういう気持ちを持った人間でいたいです。あとは変に気張らずに、自然体で安心感を与えられる医者になりたいです。ではまた来月。

3回目は「市民病院で3ヶ月間研修期間を過ごしてみて」をテーマに3人の座談会形式でお送りします。裏話が飛び出るかも?お楽しみに!



図書室で勉強中:左より馬瀬, 井石, 岡澤医師

■特別寄稿

「医療相談室の紹介」

医療ソーシャルワーカー 岩田大史

医療相談室では、療養に伴う経済的、社会的、心理的な心配事、問題、不安等について、医療ソーシャルワーカーがご相談をお受けし、問題解決のお手伝いをしています。医療ソーシャルワーカーとは、病気や怪我がもとでおこった様々な問題についての相談を受け、問題解決の支援をする医療機関の中の「福祉の専門家」です。医療ソーシャルワーカーはMedical Social Worker（メディカル・ソーシャル・ワーカー）を略してMSWといたり、広い意味でケースワーカーと呼ばれたりもします。医療ソーシャルワーカーは、どこの病院にもいるという訳ではないのですが、近年は医療ソーシャルワーカーを配置する病院も増えています（当院には2名います）。

医療相談室でお受けした相談の秘密は絶対に守ります。また、相談については、お金は一切かかりませんので安心してご相談ください。例えばこんな相談をお受けしています。

◇「入院を勧められたけど医療費の支払いが心配」
 ◇「入院しなさいといわれたけど、家には寝たきりの母がいて・・・」
 ◇「退院しても良いと言われたけど、家では介護できない」
 ◇「身体障害者の認定を受けたいが」
 ◇「特定疾患・難病ってなに？」
 ◇「介護保険の手続きはどうすればいいの？」
 などなど。このように医療ソーシャルワーカーは、療養に伴う生活全般について、相談に応じ、問題を整理し、解決方法を一緒に考えていきます。入院中や通院で困ったことがあったら、遠慮なく医療相談室に足を運んでください。

当院では、医療安全や診療情報の提供についても相談をお受けしています。また、介護や看護、精神保健福祉についても専門の担当者がおりますので、お気軽にご相談ください。

■連載企画 検査値の見方③

「前立腺腫瘍マーカー（PSA）による前立腺癌の検診」

前立腺癌は欧米人とくに黒人に最も多い癌で、もともと日本人では少ないとされていましたが、高齢化と食事・生活習慣の欧米化により、日本でも徐々に増加している癌の一つです。深作欽二監督など、なぜか著名人に多く、最近では皆さまの関心も高いように思われます。また、3月に行われた第43回日本臨床検査医学会東海・北陸支部総会のシンポジウムのテーマとして取り上げられました。

検診の立場から見ると前立腺癌は特別な癌で、なぜかといえば血液検査で発見できるからです。一般的に癌の時に血液中に増えてくる物質を腫瘍マーカーと呼んでおり、前立腺癌の場合は「PSA（前立腺特異抗原）」が測定されています。大腸癌や肺癌、乳癌など他の癌でもそれぞれの癌によっていろいろな腫瘍マーカーが高くなりますが、多くの癌ではある程度癌が周囲に広がらないと高くなりませんので、早期癌の発見にはあまり効果がありません。一方、おしっこが出にくいとか腰痛などの症状が現れるのはかなり進行した前立腺癌の場合が多いので、血液検査で簡単にスクリーニングできることは早期の前立腺癌の発見にとっても有利です（癌のなかで唯一老人保健が適用されています）。

一般的にPSAが4.0 ng/mlを超えれば陽性とされますが、前立腺がもともと大きい方（前立腺肥大症）で

は高めに出来ますし（4～10 ng/mlはグレーゾーンと呼ばれています）、逆に若い方はより低くても（50歳では3 ng/ml以上）、注意する必要があります。前立腺肥大症と前立腺癌はほとんど同じ症状ですから、症状で両者を区別することはできません。直腸診や特殊な超音波検査など泌尿器科の専門医による精密検査が必要となります。さらに診断を確定するために前立腺生検が行われます。前立腺生検とは前立腺に細い針をさして前立腺組織を採取し、癌細胞があるかないか、あった場合はたちの良い方か悪い方かを判断する病理検査です。病理検査でがん細胞が見つければ、治療が始まりますが、一般的に前立腺癌はゆっくり進行することが多いので、早期発見されれば予後は比較的良いとされています。

病理検査が陰性でも病理検査で見つからない小さな前立腺癌のこともありますから、定期的にPSAを測定し、経過観察する必要があります。PSAが高くなる場合はやはり注意が必要です。検査精度を上げるために、PSA濃度（前立腺1mlあたりのPSA値）や蛋白結合型比率などといった新しい指標も現在工夫されています。

前立腺癌の診断と治療については当院泌尿器科の専門医と十分ご相談下さい。（臨床検査専門医、齋藤）

■連載企画 医療相談Q&A① 「介護相談Q&A」

今月は、医療相談の中でご質問の多い介護保険についてお伝えしたいと思います。

Q 1. 介護保険ってどんな制度？

A 1. 介護が必要になっても安心して暮らせるよう、介護を社会全体で支えるための制度です。サービスを受ける事業者を自ら選択できることが大きな特徴です。

Q 2. 介護保険は誰でもいつでもサービスを受けられるの？

A 2. 65歳以上の方（第1号被保険者）で要支援・要介護状態と認定された方が受けられます。また、40歳から64歳までの医療保険に加入していて（第2号被保険者）、老化が原因とされる15種類の病気にかかっている方のうち、要支援・要介護状態と認定された方も受けられます。申請を行なうと、認定結果が出る前であっても暫定でサービス利用ができます。「申請に行くことも大変なのに・・・」という方の場合、申請やケアプラン作成、サービスの調整などを居宅介護支援事業者に代行してもらうことができます。

Q 3. 介護保険の対象から外れたらサービスは受けられ

ないの？

A 3. 要介護認定で「自立」と認定された方や60歳以上で何らかの障害がある方に対して、自立支援サービスを提供しています（市町村によって多少異なります）。

介護保険制度が始まってから4年経過しましたが、まだ制度についてご存知ない方もいらっしゃいます。疑問や相談のある方は、来院の折り、医療相談室にお越し下さい。どんなことでもお気軽にご相談ください。



左より中村, 岩田, 太田

■連載企画 ボランティア・エッセイ④ 「母にプレゼント」 病院ボランティア 石森 貞夫



玄関ホール受付にて

病院の正面玄関では、今日も自家用車でお母さん方や、息子さんが両手をつなぎながら来院され「車椅子をお願いします」とお母さんを乗せて下さいと頼まれますが、親子や嫁さんとお姑さんなど、まことに微笑ましい肉親愛が、感じられます。

5月9日は「母の日」で、カーネーションが贈られますが、病室にも咲きほこっていましたが、なかには「カーネーション」ではなく、シオン抜きの方が良いとゆう現代っ子？がおり、カーネーションからシオンを抜くと、まさにカーネー(金)になり、花よりカネが便利、ありがたいなど、これは落語のお笑いだそうで、戴けませんね。

さて、母にプレゼントされたエピソードを聞きました。最近ご結婚された娘さんの結婚披露宴のことです。セレモニーでは、娘から「ぬいぐるみ」をプレゼントされたそうです(通常は花束が多い)。手渡しされて「妙に重いな？」と感じたそうで、司会者からの説明で「プレゼントのぬいぐるみは、花嫁が生まれたときの、体重とピッタリ同じ重さのものです」で、初めてわが娘を抱きしめた27年前の、あの日の誕生の感激が再びよみがえり、さらに今日まで無事につつがなく成長したことへ

の、感謝の気持ちで胸がいっぱいになり、涙したとのことでした。

これは、体重計でははかることのできない「いのち」の重さであり、そのいのちの重さをお母さんだけは、数字や理屈のみではなく、肌身で感知することができる母固有の“いのちの秤”が備わっているからでしょうが、やがて娘さんも母になる日がくれば、お母さん同様に、体内に宿された“いのちの秤”が、はたらきだすことでしょう。「同体の慈悲」は、慈愛をこめて子を養育し、いのちと一つになることでしょう。赤ちゃんが出産するたびに、このエピソードは母から娘さんに引き継がれますね。

もう桜の花が散り、葉桜も過ぎて新緑の季節から、我が家の周辺はカッコウの鳴声が聞こえる初夏の気配がただよい、アツとゆう間の自然の変化に驚かされ、「花には散ったあとの悲しみはない。ただ一途に咲いた喜ろこびだけが残る」という一首があり、またアメリカの詩人サミュエル・ウルマンの詩に、『青春とは、人生のある期間だけではない……年を重ねるだけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる。頭を高く上げ、希望の波をとらえる限り、80歳であろうと人は青春にして已む』と。年齢に関係なく感動し、希望の波に乗って、花が一途に咲く喜ろこびを感じて、自然に親しみながら私たちは日々を過ごしましょう。

■今月のふれあいギャラリー (玄関ホール2階)

7月1日より、写真「アカデミー賞」(渡邊直光さん作)を展示しています。待ち時間などに気軽にお立ち寄り下さい。6月1日より展示していましたが写真「バラと緑と言葉のハーモニー」(村沢京子さん作)は終了しました。ありがとうございました。



村沢京子さんの作品

■今月のイベントと院内の動き

○6月1日より亜急性期病棟が認可されました。

在宅復帰を支援するための特別な病棟で、そのために専任の在宅復帰支援者がいます。

○6月14日～18日まで、社会に学ぶ「14歳の挑戦」として、堀川中学と三成中学の生徒さんが体験活動をされました。

小児科・産科・内科病棟では看護ケアを体験されました。「看護の仕事を知ることが出来た」「看護師の看護の様子が見ることができて良かった」との感想でした。



○高校生の一日看護見学が7月8日、15日に行われます。

一日看護見学を通して、高校生の皆さんに看護職と看護業務について理解を深めていただき、将来の進路選択の参考にしていただく事を目的に行なわれます。県内の高校2年生、3年生、625名が23病院で見学されます。当院へは7月8日に30名、15日に29名が見学にこられ、看護体験されます。

■編集コラム

「タダほど怖いものはない」とは昔からよく言います。どうせタダなのだからと、ついつい粗末に扱ったり、無駄遣いしてしまった経験はないでしょうか。一方、誰しも高い税金は払いたくない、少しでも安くしてほしいと思っていられるでしょう。そんな思いで払った税金が、いろんなところで無駄遣いされているかもしれないことには案外無頓着なものです。

医療費の自己負担が高くなって、医療費への関心が高くなってきているように思いますが、それでもかなりの額が医療保険でまかなわれていますし、病院で使われている経費には皆さま方の税金も使われています。安くなっている分はどこかで国民(市民)負担があるんだという意識を持つ必要があります。患者さまも私たち医療者も、効率的で無駄のない医療を意識することは大切なことです。例えば、当院では後発医薬品(ジェネリック)をお勧めしておりますが、同じ薬なら皆さまも安い方がよいでしょうし、医療費(国民負担)の抑制にもつながるわけです。当院で行われた医療費に疑問があれば、気軽に医療相談室にお尋ねください。また、ホームページの医療費シミュレーションもご活用下さい。

☆ご意見紹介☆

外来食堂について、トイレについて、病棟の個室について、貴重なご意見をいただきました。それぞれ関係部署にお伝えいたしました。今後も皆様のお声を病院改善にいかせたいと思います。よろしくお願いします。

一部抜粋：市民病院内のトイレは、はっきりいって汚いとおもいます。また子供用の便座がないので、子供が大便をするときはとても大変です。他の病院内のトイレには設置されているのになぜ設置しないのですか。病院は子供や老人が多く利用しているのです。ぜひ検討ください。

☆お知らせ☆

本誌は富山市民病院メールマガジンでお届けした内容をリメイクして編集しております。電子メールアドレスをお持ちの方は、この機会にぜひ電子メールアドレスをご登録下さい。お申し込みは富山市民病院ホームページ(<http://www.tch.toyama.toyama.jp/>) 下段左のウェブサポーター欄をご覧ください。

総編集長: 病院長 泉 良平

編集部: 齋藤勝彦・家城岩松・石森貞夫
山本和子・森川知俊

発行: 富山市立富山市民病院広報委員会
〒939-8511
富山市今泉北部町2-1

電話 076 (422) 1112
Fax 076 (422) 1371

<http://www.tch.toyama.toyama.jp/>



富山市立 富山市民病院

